

岡山県×JADA Partnership 「スポーツの価値」を基盤とした教育 体育理論

山本 悟朗

岡山県立高梁高等学校教諭

岡山県立高梁高等学校では、体育理論の中で「スポーツの価値」を学び、理解し、共有する取り組みが行われた。スポーツのすばらしさを象徴する具体的なシーンを紹介することにより、生徒の理解がより深まったとの報告がなされた。



本日は、①学校紹介、②実践内容（1時間目～考え、感じ、学ぶ～）、③実践内容（2、3時間目～学びを表現・発信⇒学び合い～）という3つのコンテンツを通じ、3時間の授業の中で行った体育理論の実践を発表します。

本校は岡山県の中央に位置し、山に囲まれた自然豊かな場所にあり、のんびりとした田舎の素朴な生徒達が集まっている学校です。普通科3クラスと家政科1クラスの2学科があり、430名が在籍する小規模な学校です。歴史は古く、今年創立140周年を迎えました。

校舎の上には、岡山県でも有数の望遠鏡が設置されている天文台があります。また、当地区は、天守が現存する唯一の山城「備中松山城」でも知られています。

あなたの考える 「スポーツの価値」とは？

体育理論の実践授業の1時間目は「ス

スポーツの価値を考え、感じ、学ぶ時間」、2、3時間目は「学びを表現・発信し、皆で学び合う時間」としました。生徒たちには最初に、1時間目はインプット、2時間目はアウトプットして皆で共有し、3時間目に再びインプットしよう、と3時間全体の流れを説明しました。

1時間目の目標は、「スポーツの価値について考え、意見を交わし、多様なスポーツの価値を知ること」です。

はじめにキーノートで「岡山県×JADA Partnership～『スポーツの価値』を基盤とした教育」の文字を示し、JADAとは何か、との説明からスタートしました。生徒の興味を引くために、「去年は元スポーツ庁長官の鈴木大地さんを表敬訪問した」エピソードなども盛り込みました。

また、JADA制作の「スポーツの価値をアンチ・ドーピングの考え方を通して知る、理解する、共有する」という非常に優れた動画も視聴しました。

その後、まずは「スポーツの価値について君たちの考えを出し合おう」、併せて「IOCの考えるスポーツの価値についても感じてみよう」、と提案しました。生徒たちに互いに意見を交わさせるために、4人ずつのプロジェクトチームを作成し、3分以内でリーダー決めを行い、「あなた、人々にとってスポーツにはどんな価値がありますか」と投げかけました。生徒たちは、それぞれが考える自分なりの価値を付箋に書き、それらを模造紙に貼ってグルーピングしていきました（図1）。

「人と人がつながれる」、「出会いがある」、「世界とつながる」、「思いやる気持ちを学べる」、「お互いに楽しめる」といった様々な意見が出されました。また、コロナ禍の現在から連想し、戦争や震災が起こればスポーツはできない、という意味で「平和の象徴」と書いた生徒もいました。

2年前、西日本豪雨により地区を流れる高梁川が氾濫し、多くの生徒の自宅が床上浸水しました。用具が流されたり水をか

ぶったりしたため、その時期は部活動も一切できませんでした。「スポーツができるっていいよね」と話す班もあり、よい話し合いをしていると思いつながら見ていました。その他、「経済効果がある」などの意見もありました。

IOCの考える「スポーツの価値」を感じてみよう

グループでの意見交換の後、多様なスポーツの価値を知るために、IOCが表現するスポーツの価値についての3つのキーワード「excellence」、「friendship」、「respect」を示しました。言葉だけではほんやりとしか伝わらないと考え、それぞれの言葉を表現する動画を生徒たちに見せました。

「excellence」は、ソチ・オリンピックのフィギュアスケート競技における浅田真央さんの演技です。ショートプログラムで大失敗し、フリープログラムで自己最高得点を取っても金メダルは望めない状態に

制作物①【グループでのまとめ】

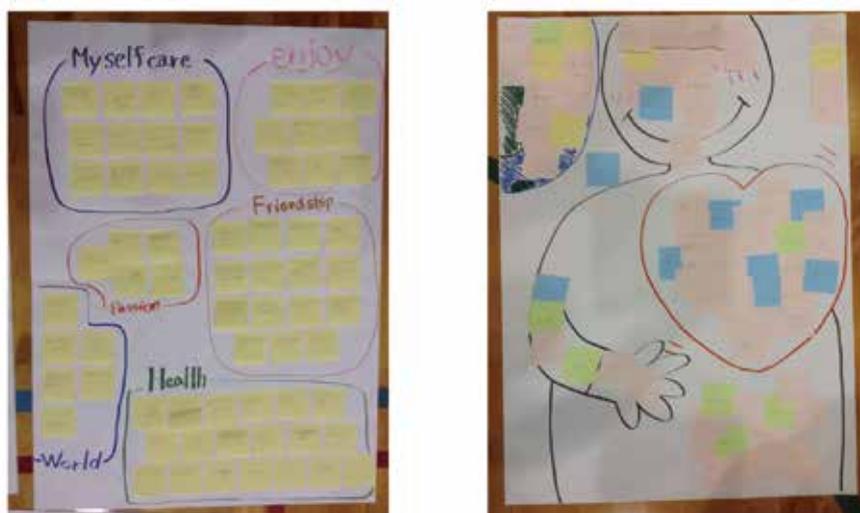


図1

あった中で、最善を尽くす演技を行った時の映像です。

「friendship」は、リオデジャネイロ・オリンピックの陸上競技、男子4×100mリレーにおける日本代表チームの例です。4選手それぞれのベストタイムを合計しても、表彰台に上がることは困難な状況でしたが、チームワークとフレンドシップで銀メダルを獲得した時の映像を使用しました。

「respect」は、甲子園の高校野球です。バッターの打ったボールがピッチャーに当たってしまった時、最初にコールドスプレーを持ってピッチャーの治療へ駆けつけたのは、敵チームのコーチでした。勝負の上では敵であっても共に戦う仲間である、相手を尊重する気持ちが感じられる、という話をしました。

これらの動画を見終えた後で、「皆は何を感じたのか」と問いかけました。そして、一人ひとりが考えるスポーツの価値、IOCが考える価値は全てが正解であると話し、1時間目の授業を終えました。

9割の生徒が スポーツの価値を実感

続いて2時間目には、まず前回の復習を行った後で、40分ほどかけてスポーツの価値を表現＝デザインし、前回の授業で感じたことを発信しました。

3時間目は、各自がデザインしたものを皆で見せ合い、投票を行って優秀作品を決め、最後に感想を述べてまとめを行う、という流れでした。

2時間目のデザインでは、文章を考えるための参考資料として、「同志社大学体育会会員憲章」、「鹿屋大学アスリート憲章」を紹介しました。デザインのヒントとしては、昨年のラグビーワールドカップの新聞広告「世界一、楽しもう」「どうして知らない国を応援したんだろう」を示しました。

わずか40分の制作時間でしたが、様々な作品ができあがりました。一例として「高梁高校スポーツ憲章」(図2)、また、美術部の生徒は、涙や音楽などスポーツに含

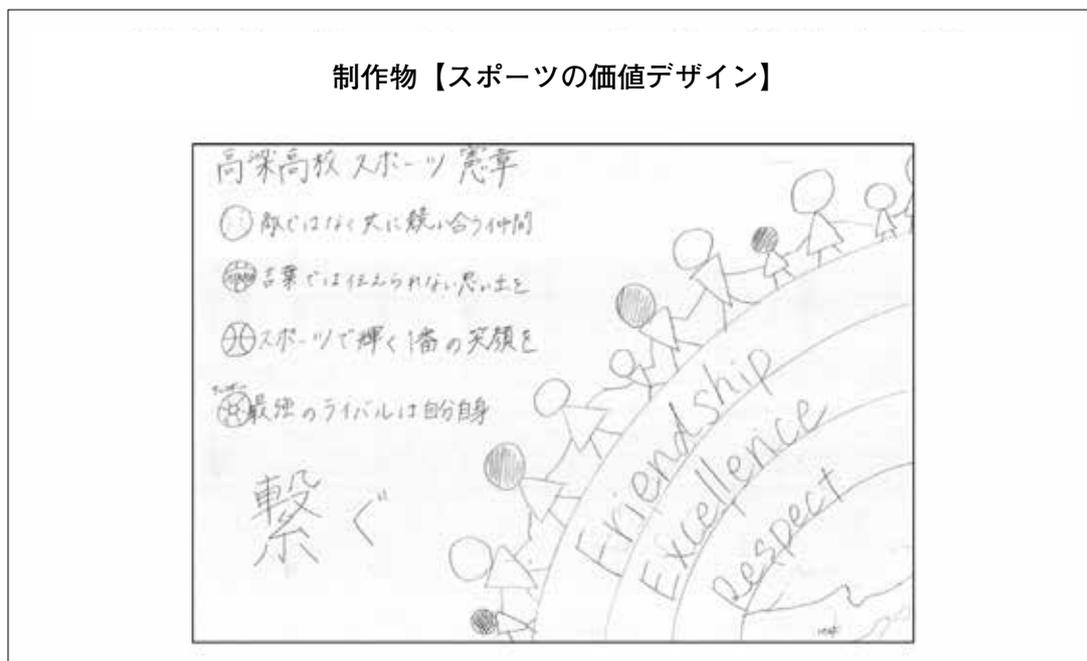


図2

まれる様々な要素を表現しました(図3)。また、スポーツは「する」だけではない、見て感じてそれが自分の物語につながる、ということを表した生徒もいました。この生徒は文化部ですが、スポーツから努力する大切さを学べること、感動により成長できることなどを話してくれました。

他教科との連携が課題

最後に授業の成果と課題をお話しします。成果としては、すべての生徒が意欲的に取り組むことができました。観察ではありますが、怠けているような生徒は一人もおらず、自分の考えるスポーツの価値を付箋に書いた時も、一人10枚程度は書いていました。

3時間目には全員の作品を Google の Classroom にアップして皆で投票した後に感想文を書き、アンケートを取りました。それによると、9割以上の生徒は「スポーツの価値が高まった」と記述していました。残り1割に関しては、「自分にとっては以

前からスポーツの価値が高かったので変わらない」との意見でした。逆に「価値が下がった」と感じた生徒は一人もいませんでした。

作品は、Google の Classroom を通じて全校に配信し、体育館にも掲示しました。実は、学校の体育祭で、今回の学びを全校生徒に広げたかったのですが、コロナ禍で縮小開催となってしまい、全員につなげることはできませんでした。来年度には、どこかのタイミングでつなげたいと考えています。

課題の一つは、他教科との連携を図るべきだった、ということです。今回の授業では特に、美術との連携を図ることができれば、デザインに当てた1時間を有効活用できたのではないかと、思います。事前のカリキュラムマネジメントが必要でした。また、観察や制作物、感想文への評価が困難であったことも課題であると感じました。

以上です。ありがとうございました。



図3